

「現業」廃止・全面外注化阻止を

検修全面外注化、分社化・転籍、 グループ会社再編と一体の攻撃

組織・人事賃金制度・労働条件の抜本的改悪提案で重大なのは、「現業と非現業の区別をなくす」＝現業廃止を打ち出していることです。

現業すべてを外注化する攻撃

今度の提案は、直前に提案された検修業務のJR本体に残った最後の業務の外注化、保線業務をJR本体が放棄するに等しい提案と一体です。

そう見れば今度の提案の核心が、「JR本体の非現業化」、現業部門の最後の切り捨てと全面的な外注化、分社化・転籍

攻撃にあることがはつきりします。

提案資料では、

「第一線の職場（駅・乗務員職場、車両検修職場）」と書かれ、保線や電力、信号通信などはすでに「第一線の職場」と位置づけられてさえいません。

駅業務は、すでに



動労千葉は検修・構内業務の外注化と闘い12年にわたって阻止した（写真は2012年1月の京葉車両センター前）

に大規模駅を含めて丸投げ外注化が行われています。

この提案直前、4月に提案された新系列車両の機能保全・臨時修繕の外注化は、検修業務でJRに残された最後の部分まですべて外注化する攻撃です。

現在、唯一外注化されていない現業の職種は乗務員です。だからこそ、今回の提案では最も直接的な攻撃の対象です。乗務員まで含めた現業切り捨てであり、鉄道業務の全面外注化が今回の提案の核心です。

転籍の制度化・出向期間延長

提案には「転籍」の制度化、転籍一時金新設、出向手当増額・出向期間の原則5年への延長も含まれています。JRは分社化・転籍で全面外注化攻撃を強行しようとしているのです。それはグループ会社における車両整備会社の集約・統合や清掃部門の切り離しなどの再編攻撃とも完全に一体です。

改めて全面外注化攻撃との対決の時です。すでに外注化の矛盾は事故続発・安全崩壊をはじめ完全にあらわになっています。攻撃を阻止する力ぎは闘う労働組合の力です。動労千葉とともに、大再編攻撃と全面外注化、分社化・転籍攻撃に反対の声をあげよう。